



JICA いちおし 10月号

(2018年10月1日発行)



* 国名にはリンクを張っております。あわせてご確認ください。

ボリビア

いちおし!

技術協力協定締結・ボランティア派遣開始 40 周年記念式典を開催!

JICA はボリビアにおいて前身の海外移住事業団により移住者・日系人支援を開始するとともに、1977 年に青年海外協力隊派遣取極、1978 年に技術協力協定が締結されて以降、農業、保健医療、教育、水、環境、インフラの各セクターにおいて、「人づくり」を中心に技術協力と資金協力、そしてボランティアを組み合わせた事業を行ってきました。また、日本等で研修を受けた約 6,000 人のボリビア人と、ボリビアで活動した 1,200 人以上のボランティアが日本とボリビアの橋渡し役として信頼関係を構築してきました。

今般、ボランティア派遣開始と技協協定締結の節目となる 40 周年を祝うため、11 月 6 日に 40 周年記念式典を実施します（於ラパス市、ボリビア国外務省ホール）。

式典では、JICA 帰国研修員が育てた苗木が未来の日本とボリビアの友好を担う子どもたちによって届けられ、後日両国の代表者による 40 本の記念植樹が行われます。また、我が国によるボリビア最初のプロジェクトで設立された日本・ボリビア消化器疾患研究センターを中南米地域随一の人材育成機関に育て上げたビジャゴメス医師に対し JICA 理事長賞の授与式を行うほか、ボリビア国で人気の日本人音楽家グループ「ワイラ・ハポナンデス」（昨年本邦誌「AERA」にも掲載）による、日本とボリビア音楽が融合したパフォーマンスも披露される予定です。いずれも、40 年間の協力を通じてはぐくんできた「信頼」をテーマとして、日本とボリビアの国家及び市民の友好関係を一層深めていく内容となっています。



両国の国旗、日本のシンボルである富士山をモチーフに、2つの国が友情の架け橋で結ばれていることを表現している記念ロゴ

[表紙へ](#)

グアテマラ

いちおし！

技術協力協定締結 40 周年記念式典を開催！

技術協力の促進によりグアテマラ共和国と日本との友好関係を一層強化し、両国の経済及び社会発展を促進するため、1977年3月28日に技術協力に関する日本国政府とグアテマラ共和国政府との間で協定の署名が行われ、今年で40周年を迎えます。

JICAは40年にわたり、グアテマラ共和国の持つ多様な文化や伝統を尊重しながら、地域・民族間の格差是正、環境保全や防災の推進のため、基礎教育、安全な水、母子保健、栄養改善、市民安全、自然災害対策など様々な分野の協力に取り組んできました。

今般、節目となる40周年を両国で祝うため、11月9日にグアテマラ市において技術協力協定締結40周年記念式典を実施し、これまでの協力の成果を振り返り、持続可能な開発を実現するための課題解決に取り組んでいきます。

また、式典では、日本の協力で完成した中等数学の教科書の引渡式を行います。同教科書は来年1月に全国配布される予定です。



グアテマラ（ケツアル、織物）と日本（日の丸、桜）をモチーフにした記念ロゴ

[表紙へ](#)

おいしい海老！20年ぶりの円借款で後押し！

皆さんはエクアドルのプリプリで味の凝縮したおいしい海老をご賞味されたことはあるでしょうか？JICA エクアドル事務所に赴任するスタッフの全員がエクアドルの海老の安さとおいしさに驚きます。エクアドル産海老はエクアドル国内の消費だけではなく日本をはじめとした世界中に輸出されており、エクアドルの代表的な産物となっています。そして、[先月5日に政府間で署名された有償資金協力「電源構成転換促進支援計画」](#)がこの海老養殖産業を後押しすることが期待されています。このエクアドルでは20年ぶりとなる円借款はエクアドル国内の国家送配電網を増強するもので、主な接続先の産業には海老養殖場が計画されています。海老養殖には多量の電力を消費しますが、現在、国内の海老養殖場の多くは国家送配電網に接続されておらず、ディーゼル等による自家発電に頼っています。円借款でクリーンな電力が国家送配電網で安定して供給されることにより、これら海老養殖業のさらなる活性化が期待されています。



広大な海老養殖場での作業の様子

エクアドル事務所の情報はこちらから↓

<https://www.jica.go.jp/ecuador/>

<https://www.facebook.com/JICA-Ecuador-1449678225354548/>

ブラジル

いちおし!

「人間的出産の協力成果が認められ表彰」

9月17日、ブラジリアの看護師連邦委員会主催の「女性の健康」と題するシンポジウムにて、これまでのJICAの人間的出産における技術協力が認められ、当該委員会から表彰されました。

母子保健、人間的出産に関する協力は1995年から始まり、現在も課題別研修、第三国研修として継続中です。

1995-2000年に実施した、伯国内でも比較的貧しいセアラ州における「家族計画・母子保健プロジェクト」は現在、伯側では「光のプロジェクト」と呼ばれており、伯国内の出産にかかる諸制度改善、助産師・看護師の能力強化に大きく寄与しています。

非日系の帰国研修員が当該委員会の会長を務めており、日本の知見活用・普及に貢献しています。



参考：写真リンク先

http://www.cofen.gov.br/comissao-tecnica-de-saude-da-mulher-e-implimentada-no-coren-df_65539.html

[表紙へ](#)

以上